

国語科より

【受験生 国語（東大国語・難関国語・私大国語）】

1. ご用意いただくものと配付するもの

① 予め用意して **Gnoble** の授業に持参すべきもの

□辞書（電子辞書やスマートフォンのアプリ・サイトでも可）

解説の補助として国語辞典・古語辞典などを参照できると便利です。古文・漢文の月では日常的に使用している古文単語帳や漢文の教材などがあれば、持参しましょう。

② 授業内では使用しないが、ご用意いただきたいもの

□古文・漢文の基礎レベルの読解問題集（特に1学期）

授業内では、難しめの問題、解くのに工夫が必要な問題を中心に扱います。それを復習することはもちろんですが、日常的な学習に使用するため、易しめの読解問題集も用意し、演習経験を積みましょう（具体的な教材名等は授業内外で担当よりお伝えします）。

□「赤本」「青本」などの過去問演習用教材（特に夏から受験直前）

夏休み以降、志望校の過去問演習を行うよう学習指示を出します。急ぐ必要はありませんが、最新年度の入試問題まで反映されたものが発売され次第、購入しておきましょう。

③ **Gnoble** の授業内で配付されるもの

□通常授業テキスト：1 か月ごとの配付です。4月度・9月度の初回のみ当日配付、それ以外は前月最終回にて配付します（選択受講している生徒には、受講月の開始前週に郵送）。

□お帰り問題（知識確認）解答：毎週、テキスト巻末の知識確認問題を実施します。

□現代語訳：古文・漢文の月では、毎週、訳を配付します。

□季節講習テキスト：講習初日に配付します。

2. 授業の進み方と日々の取り組み

① 授業の進み方

1 か月毎に重点分野を決め、選りすぐりの過去問の演習・解説を行います。（季節講習は総合）お帰り問題として、古漢の知識確認（私大国語は、それに加えて漢字の読み書き）を実施します。

	東大国語	難関国語	私大国語
4月/9月度	現代文 ^(二次・共テ)	現代文 ^{(二次(要約含む)・共テ)}	現代文 ^(私大入試・共テ)
5月/10月度	古文 ^(二次・共テ)	古文・漢文 ^(二次)	古文 ^(古漢融合含む、私大入試・共テ)
6月/11月度	現代文 ^(二次・共テ)	現代文 ^{(二次(近代文語文含む))}	現代文 ^(私大入試・共テ)
7月/12月度	漢文 ^(二次・共テ)	古文・漢文 ^(共テ)	漢文 ^(古漢融合・近代文語文含む、私大入試・共テ)

※通年受講を推奨しますが、自身の学習状況や志望大の出題分野、学校行事に応じた選択受講も認めています。

※一橋大学を志望する生徒で、併願する私立大学の対策も希望している場合は4月難関・5月私大・6月難関・7月私大のように受講してください。

東大国語・難関国語では、実施した記述演習について、担当者が直接添削を行っています。添削を受けた答案はよく復習してください。また、人の目に触れることを意識し、真剣に演習すること自体も成長の機会です。宿題に集中して取り組む時間を確保しましょう。

選択式が中心の「私大国語」では、添削課題の代わりに毎週、点数報告・振り返りを提出します。疑問や相談を気軽に担当に伝えられるようになっていきますので、ぜひご活用ください。

②日々の取り組み

A・授業の予復習

毎授業、事前に解く問題が指定されます(大問 1~2 題、所要時間 30~60 分程度)ので、必ず実施した上で授業に臨みましょう。授業後は、「語彙の書き出し」「間違えた問題の解法整理」「現代文の本文要約」「古文の難解な箇所訳作成」「漢文の音読」などを通じて、授業での学びを定着させましょう。長期休みにはそれ以前に学んだものをもう一度振り返りましょう。

B・基礎知識の確認

模擬試験を目安に、古文や漢文の単語等の知識を一通り見直すようにしましょう。

C・問題集・参考書での演習

それぞれの時期に何をすべきか、授業内でクラス全体にお示しします。一方で、個別の事情もあるかと思しますので、遠慮なく担当にご相談ください。

D・過去問演習

大学・学部ごとに出题形式・傾向の大きく異なる国語では、過去問での演習が重要です(残念ながら、予想問題集は出題を十分に模しているとは評し難く、過去問そのものでの練習を推奨します)。それぞれの学習状況に合わせ、開始時期や頻度などを指示します。東大・難関国語では、直前期、メール等も活用した添削制度を運用しています。